

農林水産省 東北農政局 秋田県拠点

秋田ニュース

Stationed at Akita Prefecture Area,
Tohoku Regional Agricultural Administration Office

農山漁村(むら)のお宝発見!



【写真】里山でのアウトドア体験(藤里町)

東北農政局

むら

ディスカバー農山漁村の宝アワード

令和3年11月19日に「第8回ディスカバー農山漁村(むら)の宝アワード」が選定されました。これは、「強い農林水産業、美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。

全国で選定された地区・個人以外でも、東北には数多くの優良な事例があることから、「第3回東北農政局ディスカバー農山漁村(むら)の宝」を選定しました。今回は、東北農政局が選定した秋田県内の2地区・1個人の取組を紹介します。

コミュニティ部門

南白神の里で地域の宝を磨いて元気創造！ —NPO法人 ふじさと元気塾(藤里町)—

NPO法人ふじさと元気塾(代表 藤原弘章)は、藤里町において、棚田とホタルの生息地の環境保全活動やサクラマス、イワナの養殖事業、農泊事業、移住定住促進事業など、関係人口の増加や地域を元気にするための活動を展開しており、町で設置している「木の駅」の管理運営、移住定住促進・空き家紹介管理事業、秋田県グリーン・ツーリズム拠点地域育成事業、魅力ある里づくりモデル事業や森林の多面的機能発揮事業なども幅広く行っています。

農家民宿運営(6軒)のコーディネートも行っており、宿泊者も増加傾向で順調に推移しています。県内の大学生や海外からの留学生を招いての交流、地元小学生の農泊体験などを継続的に行っている



保全管理された横倉の棚田

ほか、予約制の農家レストランの運営や、空き家をリノベーションして設置した活動拠点施設の「南白神ベース」をアウトドア体験、交流の場として活用しています。

同法人では、人口減少が進む小さな農山村で、移住・定住者をすぐに増やすことはできなくても、関係人口を増やし、発想豊かな若い人を増やしていくことは大事なことで考えており、最近では、県外から家族で移住して町内の放牧場で本格的に羊の飼育を始めた人や、Uターンして新規就農した若い人も出てきています。「今後は、県内のファミリー会員や県内外の個人会員を募り活動の輪を広げるとともに、若者の視点や発想を柔軟に受け入れ、若者の力を発揮してもらえる場をつくっていきたい」と話しています。

空き家をリノベーションした
拠点施設「南白神ベース」

農家民宿の手料理

「世界が認める」生薬の郷を目指して！ —八峰町農林振興課（八峰町）—

ビジネス部門

生薬原料は、ほとんどを中国からの輸入に頼っていますが、世界的な生薬需要の高まりから、国産の安定供給を求める声が増えています。

八峰町では、平成24年度から生薬原料であるキキョウやカミツレ（ジャーマン・カモミール）等の栽培実証に取り組んでおり、環境に適応した肥培管理を模索しながら、実証データに基づき町内の生産者への普及に繋げています。

キキョウ栽培の初期段階の収穫量は約15kg/10a（乾燥重量）でしたが、調製作業場や機械整備等を進め、収穫後の選別調製等の作業の効率化を図ってきたことで、令和2年度には約130kg/10aにまで増収させました。カミツレについても栽培指針と乾燥調製の作業体制を確立して規模拡大を目指しています。

また、規格外品を薬膳料理やカモミールティなどの特産品の開発に活用し、商品化することで地域の活性化につなげています。

カミツレの収穫は手作業であることを利用し、生薬PRも兼ねて町内の小中学校や県内高等学校の児童・生徒、福祉団体の利用者の収穫体験、視察研修などを積極的に受け入れ、交流人口の拡大に努めています。

平成30年には、「社会とのつながり支援事業」を活用して、ひきこもり者をカミツレ収穫作業に受け入れることで社会復帰を促す活動にも取り組み、将来的には、障がい者実習・雇用等による農福連携など、様々な分野と連携することにより、世界が認める高品質な「生薬の郷」を築いていきたいとしています。



生薬原料の栽培実証ほ場



八峰町産カミツレの製品

個人部門

農業体験と農泊で移住・定住・地域おこし —鈴木 孝明（たじゅうろう農園・上小阿仁村）—

約10年前から、全国でもめずらしい食用ほおずきの生産に取り組んでいます。コロナ禍前には、数校の大学生が夏休み活動で農業実習や食用ほおずきの実用研究を行い、研究結果を地域に還元してくれました。また、平成29年には県内の大手お菓子メーカーと連携し、食用ほおずきを原料にしたお菓子を商品化しました。

昨年からは始めた農泊事業では、地域で活動している「DMO秋田犬ツーリズム」と連携してモニターツアーに取り組み、コロナ禍においても一定の利用者が訪れ手応えを感じています。新たにワーケーションにも対応して、国内外からお

客様を迎えるための「新たな旅のスタイル」に対応すべく、ソフト・ハード面の整備を行っています。

地域との連携が重要なので、農泊では宿泊



農家民宿の一室

と食事を分離し、食事は近隣の飲食店を利用してもらうことにしました。

今後は、秋田杉の木工細工やきりたんぽ、だまこもちづくり体験なども行っていくことで、地域活性化の輪を広げたいとしています。



食用ほおずきの栽培ハウス内

お知らせ

※「農山漁村(むら)の宝アワード第9回選定」は
6月16日から8月26日までエントリー募集中です。

詳しくはこちらのURLをご覧ください。

<https://www.discovermuranotakara.com/sentei/>

